



平成20年度葛飾区と市民活動団体との協働事業 「二つの提案とともに二次審査会を通過！」

前号でお知らせした平成20年度葛飾区と市民活動団体との協働事業提案のその後の経過をご報告します。

7月6日に一次審査会が行われ、ユニコムかつしかが提案した区からの課題事業「区民がつくる葛飾百科」、自由発想事業「暮らしを彩るIT講習会」の二つともに一次審査会を通過しました。通過した提案は全部で9団体10事業でした。

一次審査会通過後、区の所管課等と事業内容や収支予算など、およそ3週間かけて詳細協議を行い、二次審査会に向けて提案内容の充実を図りました。

二次審査会は9月3日、有識者や公募区民など審査委員7名の前で、各提案団体の代表が7分間のプレゼンテーションを行ったあと、審査委員と8分間の質疑応答を行う形で行われました。

自由発想事業の部では、「暮らしを彩るIT講習会」がトップバッター。野呂理事、鈴木健夫理事が落ち着いたプレゼンを行い、質疑にも的確に対応しました。課題事業の「区民がつくる葛飾百科」は鈴木志津子理事が発表。一次審査会で審査委員の条件が満たした点を中心に説明、質疑応答も順調でした。

すべての発表が終わったあと審査結果発表。ユニコムかつしか提案の二事業は、それぞれの部門においていずれも2位で採択されました。審査会や諸々の検討に参画された皆様のご苦勞に心から感謝いたします。

この後、さらに区と詳細を詰め、今年度末の区議会での予算承認を待つこととなります。

ユニコムかつしかでは、これで「かちねっと」と合わせて3つの協働事業を実施することになります。今まで以上に会員や地域の皆様方のお力を必要としますので、ぜひご協力よろしく願いたします。

9月30日にかちねつとの集い

区との協働事業として、地域SNSかちねつとを6月1日に正式スタートさせて3ヶ月。8月末現在の会員は325人になりました。



9月30日には、立石3-1-2-1の市民活動支援センターで参加者の交流会を兼ねて、かちねつとの今後を考える集い「かちねつと広場」市民活動支援センター」を開催します。この集いは、同センターが市民団体などに場所を提供する、センターのイベント支援事業に応募したものです。

集会室を展示場に

同センターの集会室と大会議室を使い、集会室ではコミュニティの展示を、大会議室で地域SNSについて考えるフォーラムを行います。

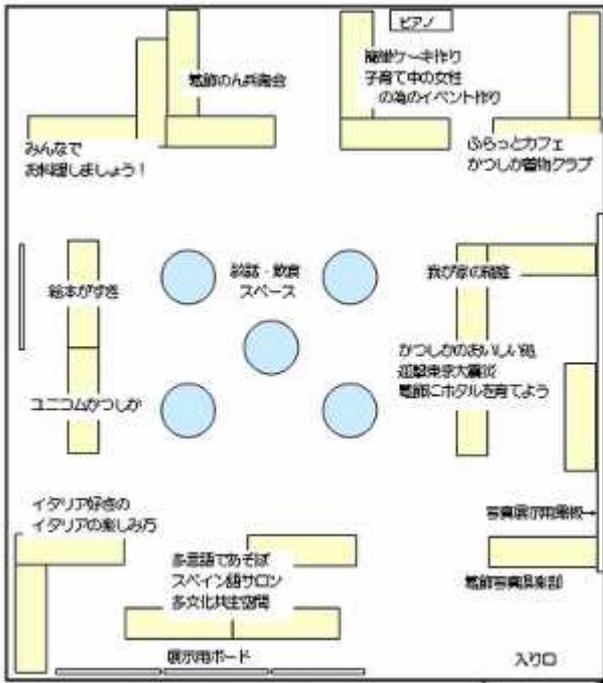
8月中旬にブース出展を募ったところ、15のコミュニティが参加してくれることになりました。参加コミュニティは「イタリア好きのイタリアの楽しみ方」「絵本がすき」「かつしか着物クラブ」「葛飾写真クラブ」「かつしかのホタルを育てよう」「葛飾のん兵衛会」「迎撃東京大震災」「子育て中の女性の為のイベント作り」「簡単ケーキ作り」

「スペイン語サロン」「多言語であそぼ」「多文化共生空間」「ふらっとカフェ」「みんなでお料理しましょう！」「我が家の箱庭」です。

部屋のレイアウトは図のとおりで、1区画約1坪ほどのブースを周囲に配し、中央に丸テーブルを置き、気軽に談話・飲食ができるスペースにします。

8月25日には参加コミュニティの代表が集まって企画会議が行われ、10人が出席しました。全員女性で、地域社会は女性パワーでもっていることを実感させられました。

各自、自慢の作品や資料を展示、一部販売するなど、企画を練っているところです。展示は10時半ごろから1時半までと、お昼にかかりますが、当会の石本理事(ハンドルネーム花吹雪)が管理人を務める「みんなでお料理しましょう！」がおいしい手料理を用意、角川理事



(同マロン)も自慢のケーキを販売、そのほかカフェなどのコーナーもあるので、ブースや中央のテーブルで賞味しながら楽しいひとときを過ごせます。

大会議室でかちねつとフォーラム

1時半からは、大会議室に移り、地域SNS「ひよこむ」を主宰されているインフオミーム(株)代表取締役・関西学院大学非常勤講師の和崎宏さん(同こたつね)の基調講演「地域SNS最前線」コミュニティを元気にする地域の情報化」や、コミュニティ代表らが参加するパネルディスカッション、会場のみなさんご意見、ご質問を受ける時間などで、かちねつとの課題や今後の可能性などについて考えます。

ふるって参加を

参加はかちねつとに入会しているか否かにかかわらず、誰でも参加でき、入場無料です。これを機に、お知り合いをお誘いのうえ、ご来場ください。

ボランティアのお願い

ブースは、机やついたてなどで簡単につくる予定ですが、前日に会場セッティングと展示物の一部搬入を行い、当日9時から搬入、夕方撤収します。このため、セッティングや搬入手伝いに多くの人手が必要です。特にユニコムの会員のみなさんにボランティアをお願いいたします。

パソコン使ってますか？



■前回の「問題」■

「問題」デジカメに凝っているお父さん、コンテストに参加するため写真を印刷しようと、最高級のプリンタ用紙を買ってきました。ところが、印刷したものは発色がおかしい上に、写真全体に縞模様が出てしまって、いつも使っている安い用紙で印刷したの方がきれいなのです。さて、きれいに印刷するには？

正しい回答を選び詳細を説明してください。

「回答」

- A 用紙に合わせてプリンタの設定を変えればよい
- B 用紙に合わせてインクも買い換える

■正解と解説■

正解はAです。

印刷をするときにあらかじめどの用紙を使うか設定しておくことで、インクを吹き付ける量やタイミングやインクの量が最適になるように調節して、用紙ごとの特性を活かした印刷を行うようにします。

たとえば普通紙はインクをよく吸うため、一般的にインクの吹きつけ量を少なくします。逆に、光沢紙など写真印刷に適した用紙の場合は、緊密にインクを吹き付けて細部まで表現しようとしています。普通紙の設定で光沢紙に印刷すると色が薄すぎたり、逆に光沢紙の設定

で普通紙に印刷するとインクがにじんで、紙自体もぶよぶよになってしまっていることがあります。

■正解者■

多数の中から抽選により次の2名の方にUS Bメモリを差し上げます。

新小岩の宮尾様、奥戸の角川様。

■今回の問題■

デジカメで撮った複数の画像ファイルをメールに添付して送る場合、容量が大きくなってしまいうことがありません。

圧縮してもファイルの容量にあまり変化がない場合は、画像サイズを小さくして送るのも二つの手です。

その際、複数の画像を一括で縮小してメールに添付できる便利な方法があります。

さて、その便利な方法とは次のうちどれでしょう？

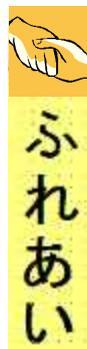
- 1 「ファイルとフォルダのタスク内のメニューを使う」
- 2 「ファイル名の先頭に「small」を表す記号を付ける」
- 3 「ファイルを分割する」

会員以外の方も回答できます。

左記アドレスまでメールにてお送りください。正解者の中から抽選で2名様にUS Bメモリーをプレゼントいたします。

×切り9月30日

アドレス・peg@net



早いもので、「シニア情報生活アドバイザー養成講座」を受講して2年近くになります。

退職後の時間をどのように使うか考えている頃にこの講座が目に入り、自由でお気楽な生活だけでなく、ボランティアも出来ればと受講してみました。

二期受講生の皆さんは、個性的で、私が今までに経験のない分野の職種を持った方々でした。こんな素敵なグループで勉強会をし、困った時の3Qには即応答。又慰労会も多々あり、今でも楽しくお付き合いをさせて頂いています。

資格取得後の一年間は「暮らしを彩るIT講習会」で講師等の経験をし、とても勉強になりました。と同時に、受講生の方から学ぶ事も多く感嘆する次第です。

80代になっても好奇心旺盛な方、同じ講座を納得いくまで何度も受講される方、ボランティア学習会に通い続けられる方、皆さん頑張ってください！

これらのパワーはどこから出てくるのでしょうか。そんな先輩達の姿を見るたびに、私も皆さんの様な、向上心を持っていただけるだろうか、いや…是非持たたい！と切に願う今日の頃です。

(真田ハル子)



イラストふわふわ。

「シニアパソコン指導 ボランティア養成講座」

「シニアパソコン指導ボランティア養成講座」は、一昨年から葛飾区高齢者支援課が実施していましたが、昨年からは区内NPOの委託事業等として実施されています。

昨年は、区主催の生きがい支援講座の一環として、ユニコムかつしかから講師を派遣して4日間の講座を行いました。

この講習会の対象は、概ね50歳以上のシニア世代の方々ですが、毎回受講申し込みが多く、団塊世代の地域活動の場をつくる意義も大きいことから、今年度は回数を増やし、年4回実施する計画を作成しました。

講座の内容は、シニアの初心者がパソコンを始めるにあたって、戸惑う点、慣れて欲しい点を中心に、マウス操作、文字入力時の注意点などの基本操作を、初心に帰っておさらい、整理してもらうことが中心です。

同時に、指導者としての振舞い方や、指導時にやってはいけないことなどの説明にも重点を置いています。

たとえば、色々な事を強引に教えない、難しい用語は極力使用しない、使用する際は解り易い説明を行うこと等々です。

シニアの初心者は、指導者の言うことをすべて覚えようとしません。だから最初から専門的な用語を使用して講座を始めると、「パソコンは難しい」という印象を与えてしまうので注意が肝心です。しかも講習会などでは受講者は指導者を選べませんから、講師の責任は大きいのです。

です。

基本的には、パソコンは覚えるものではなく、繰り返し使って慣れるものです。シニアにパソコンを続けてもらうためにも、パソコンは楽しいものという印象を与えられる指導者になって欲しい、パソコンが嫌にならない指導方法を心がけてほしい、と講座では話を結んでいます。

区民の生活の中にITをいつそう普及させるためには、そのための指導者を養成することも重要です。

以前、東京都でも同様の講座を行っていましたが、残念ながら今は実施されていません。それだけに葛飾区におけるこうした事業の意義は大変大きいと考えています。

9月1日から今年度の2回目の講座が始まりました。受講を修了された方が、一人でも多くボランティアとしてパソコン指導にご活躍されることを願っています。

(矢野 清彦)



会員募集中！

ユニコムかつしかはパソコンを活用した幅広い地域コミュニティ作りを目指しています。パソコンを教えたい人、習いたい人が共に勉強しています。パソコンの指導者の養成や、個人レッスン、出張サポートも行っています。お気軽にご相談ください。会員になると、個人レッスンやトラブルの診断・解決が一般1時間3000円、会員2000円など、割引料金になります。

IT・パソコンのことならユニコムかつしかへ！

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■講習会 ・たつみ敬老館講習会 ・ウェルピア講習会 ・白鳥福祉館講習会 ・暮らしを彩るIT講習会 ■ホームページ制作・パンフレット類作成など ■かつしか地域づくりネット(かちねっと)の構築・運営 | <ul style="list-style-type: none"> ■指導者養成講座 ・シニア情報生活アドバイザー ・シニアPC指導ボランティア ■出張サポート・出張レッスン ■個人レッスン(於:事務所) |
|---|--|

編集後記

「暑い」本当に暑い。四十度を超す日があるなんて、七十年ぶりとか。時間が経つのが早い。六十年前の終戦の時も暑かった。今は亡き母を捜して涙も枯れるほど探した。親一人子一人、父親は徴兵され、後に戦死通告があり、遺骨として木の木端もらっただけ。そんな話今の人には絵物語ですね。それもあって今耳が少し不自由になったのかな。あの暑い中、自分のくいぶちを分けてくれた人、子供心に有難味がわかった。あの暑さと人の温情忘れるものか。記憶は薄らいで来ましたが、暑い日がある度思い出すでしょう。

(芳)